

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

強欲な資本主義文明は終焉(その2。「大企業はハイテク中小企業と連携する」)

ジェレミー・リフキン(経済社会理論派)

1. 経済や科学技術の見直しについて、進行しつつある第3次産業革命に期待している。第1次および第2次産業革命が、化石燃料を土台とし、多額の資本を必要とする中央集権型であったのに対して、第3次産業革命は分散型で流動的なプラットフォームによって成り立つ。インターネットによってたくさんの人たちがお金をかけずにお互いにつながれるようになった。
2. GAFaが席卷した、第3次産業革命の第一世代は中央集権的な面が強いが、40年先にこうした企業が生き残れるかは未知数だ。というのも、大量のデータであふれる社会においては、ありとあらゆる機器にセンサーが設置され、IOTという神経系を通じてデータをやり取りするようになるからだ。一部の企業がデータを独占することはできない。いちいち遠隔のデータセンターを介してやり取りしていたら立ちゆかないからだ。大企業は新たに勃興する無数のハイテク中小企業と連携しなければ生き残りは難しい。
3. 地政学的な発想は時代遅れだ。なぜならば、気候変動によって住み慣れた土地から離れざるをえない人たちが、たくさん数に上るからだ。そこで重要なのが、バイオリージョンの考え方であり、人間の持つ生命愛や他者への共感力だ。私は若い世代の人たちの行動力に期待している。

(参考:「週刊東洋経済」2023年12月23日・30日号)

人事・労務について

人間が生きる目的は魂の成長

鈴木 秀子(国際コミュニケーション学会名誉会長)

1. 物事が順調に運ばれている時、私たちのよい部分が発揮されて大きな成果を出すことができます。ところが、都合の悪い出来事にぶつかると人を妬んだり恨んだり落ち込んだり、自分の中いろいろな嫌な部分、弱い部分が出てきてしまいます。しかし、それを克服し乗り越えるところに人間の成長があります。人間の生きる目的が魂の成長であると考えれば、起こってくるすべての出来事はそれがたとえ辛く苦しいものであったとしても、私たちの成長を促すためにあると捉えることが大切です。
2. 自分の心を深く見つめていくと、誰もが自分ではいかんともいえない矛盾を抱きながら生きています。いわば、心の奥に潜む嫌な一面と向き合い続けなくてはいけないのが私たち人間です。

(参考:「致知」2024年3月号)

経営者のための営業学

「安いニッポン」そろそろ限界

1. 「うまい、やすい、はやい」で知られる牛丼チェーンの吉野家。外国人向けのサービスでは必ずしも「やすい」が前面に出ていない。同社は、訪日外国人(インバウンド)の需要が高い約100店舗にインバウンド対応メニューを置いている。英語と中国語、韓国語の記載があり、「おすすめメニュー」のセットには、全てにうなぎが入っている。メニューの1番目「鰻(うなぎ)重牛小鉢セット(2枚盛)」は税込み2338円だ。
2. 外国人向け商品を大幅に値上げしたのがJRグループだ。2023年10月1日購入分から訪日客向けの乗車券「ジャパン・レール・パス」の価格を引き上げ、7日間で、2万9650円~3万3610円だった普通車用を5万円とした。値上げに際し「のぞみ」追加料金を払えば乗車できるように、利便性を高めた。

(参考:「日経ビジネス」2024年1月8日号)

古典に学ぶ

苦から脱する「四諦」

1. 仏教は、毒矢の刺さった状態である「苦」から脱する「四諦」を説いています。四諦とは、苦諦(生きる本質は苦である)、集諦(苦の原因は執着である)、滅諦(苦を減らした境地が悟りである)、道諦(悟りに達する道が仏教である)の四つの過程です。
2. 苦の原因である執着から自由になれば、悟りの境地が開けます。そして、その道を示すのが仏の教えなので

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)